

<p>第17号 (9月) 2014年9月1日</p>	<p>七里ヶ丘子ども若者支援研究所 それが社会参加だ</p>	<p>鎌倉市七里ヶ浜東2-31-12 携帯:090-7212-4055 メール:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp 編集長 新舛秀浩 発行編集責任者 滝田衛</p>
------------------------------------	---	---

寄稿 「子どもを主体に・・・」 山本陽子さん(会員)

去る8月9日、新平鎮博氏の「自分を見直して 個性を大切に」と題した研修会を聴講した。終始、穏やかなお話しぶりはとても心地よく、集中して聴くことができた。

発達障害の個々の特性を理解することの大切さと、個々の特性に合わせて苦手なことをどうしたらカバーできるかを考えることが必要であることがよくわかった。そして、何より心に響いたのは、『気になる行動』誰が？誰にとって『気になる』の？主語は誰？…、子どもを主体に考えてみると見えてくる。子どもが「助けて、SOS」を出していると思うと、何をしてあげたらいいのか見つけられるかもしれない。この発見の楽しみが子どもを理解することにつながり大きな信頼を生む。周囲の大人たちが心を柔軟にして、よく子どもを観察し、子どもの良いところを見つけようとするのが何より大事だということに、心底納得した。

私も今、縁あって再び中学校の非常勤をしている。特別支援教室(3教室)、総計10人の生徒が在籍している。障害の違いはあっても、私の目から教室内でみんなとても楽しそうに見える。ほとんど交流級で授業を受けている生徒も10分休みに戻ってくる。彼らにとって、ここは居心地の良い場所なのだ。

コラム風 8月の日本列島各地は集中豪雨に見舞われた。太平洋高気圧が張り出さない、北を流れる偏西風がブロック(ブロッキング現象)。その間に前線ができ、南からの暖かい風が吹き込み豪雨・雷となる。と気象予報士の解説に理解？ イギリスやカリフォルニアが高い緯度にもかかわらず暖かい、偏西風の影響と思ひ出す。さて、10年乗った愛車にお別れする旅に出た。沼津、浜松、姫路、尾道、広島、大山、皆生、境港、倉吉、鳥取、奈良。中国山地を広島から山陰へ、国道・県道の川沿いを走行、雨の合間で恐怖感も…。かの土石流被災地も前日に通った(合掌)。そして最終地の奈良、唐招提寺で鑑真和上にお目にかかれた。奈良時代6度目の渡航で西(唐、中国)からやってきた。常に西から影響を受ける日本。文化も自然も偏西風、西を受け入れどう協調するのか、風に吹かれてを実感。



連載 「すぐそこにあること9」 「新平静博先生の研修会にて」 新舛秀浩

正直この連載に新平先生(以下先生)の感想を書くのはちょっと荷が重い。研究されているからなのか専門用語で頭がパニックです。例えば発達障害の子育てはユニバーサルデザイン？って何でしょう。インクルーシブ教育って何？とわからないことだらけだった。参考までに『ユニバーサルデザインとは「できるだけ多くの人々が利用可能であるようなデザインにすること」また、インクルーシブとは「子どもによって異なる学習スタイルやペースを受容し、それを育む場』カッコ内ウィキペディアより引用。



研修会の模様

しかし、穏やかな語り口調の講演は素晴らしかった。まず先生は前提として社会を変えるのではなく、発達障害の人々がどのように生きていくか。また、その人々の才能をどのように見つけ生きていくのか。さらに得意分野を伸ばす。褒める。これは障がいの有無に関わらず、すべての人にも当てはまるのではないかと感じた。僕が共感したのは障がいを持って人を支援が必要な人であるという表現。つまり支援がないから生きにくい。もしくは障がいを持って人々が生きづらい社会インフラになっている。先生は具体例として、僕が漢字が書けないのなら、書く時間を増やしてもらい、また役所で書く場合記載欄を大きくと申し出ること。これを合理的配慮という。これらの配慮により障がいがある人もない人も共に生きる「共生社会」をとの言葉は素晴らしかった。これにより障がいのない人もより良く生きやすい社会の構築を。このような講演を聞いたうえで誰もが生きやすい社会になればとの思いです。

イベントの告知

9月23日(火)(秋分の日)「2020年はみんな(地域)で安心して楽しむ子育てを！」14時～16時総合福祉会館7階で行います。無料です。当日参加歓迎！是非お越しください。(別紙参照下さい)

8月9日子ども若者応援団会議「提案をどのように現場に落とし込むのか！」

新平鎮博氏の「自分を見直して 個性を大切に」と題した研修会の後 17名(感謝!)で議論。研修会を振り返り、今、抱える問題に対する解決策をどのように現場に落とし込むか議論しました。

研修会の後ということもあり普段参加されない方々による様々なご意見をいただきました。

応援団会議での議論は非常に有意義だが、その議論を教育現場で実際に使うことができるのか。ひきこもりに関しても応援団に参加する方々は理解があるが、一方、まだ社会での理解がないのではないかなどなど。



篠原宏明さん写真撮影感謝！

毎回応援団の議論があるが、応援団会議だけにとどまらず、どのように外部と繋がるのか。つまり不登校、ひきこもり、障がいなど生きづらさを抱えた人々が現実的・具体的に生きやすい社会にするか、という素晴らしい議論が出来ました。(参加人数が多く、また研修会の後ということもあり、新卒の力量不足で参加された方々のお名前、詳細な議論を把握できませんでした。すみません。) 島根さんの「不登校の増加を肯定！」素晴らしかったです！

それぞれの風

- 不登校の中学生が「生徒の大きな声、走り回る雑音が苦しい」「他の子との会話や関係が苦手」「朝起きられない、起きたら一日が終わってる。辛い」と悩む。自分と向き合い、他者との関わりに苦戦する。
- 高校生がつぶやく。「何時もうつつとして、すっきりしない」「親の言う通り生きてきた、自分で考えたことがない」「心を無にすることで、親や友達との関係も気にならなくなる」と。大人への自我確立への苦戦が。
- 青年の葛藤を感じる。「家族とは話さない、自分を守るため」「悩んでないわけではないが、言っても始まらない」「親に依存している自分がある、自立できない」と悶々とたたずむ若者たち。
- 心に秘めた悩み、頭で考える自分自身への深い問い、誰にも平等にある。なさそうに装い迷惑かけたくない。と親や人との関わりを避けることも・若者がいる。そのことに気が付かない大人がいる、と自戒を込める。だから問いかけ余計なお節介を。もちろん土足では踏み込まない。「辛い」「苦しい」「悲しい」と声を上げていいし、泣いてもいい。先日も平静を装った若者が親や僕の前で泣く。この声をしっかりと受け止めたい。

ご案内 9月 5日 地域青少年支援フォーラム(鎌倉市玉縄青少年会館 13～16:30)
9月13日 フリ・フリ・フェスタ(県青少年センター 11～15)

相談は10時～16時でお願いします。訪問もご相談を(土日も)イベントの参加多数お待ちしております。応援団会議 14時～16時ご参加下さいね。	9月の開設日程(駐車場あります)			
	1日(月)	相談 予約済み	18日(月)	相談
	4日(木)	相談	21日(日)	応援団会議14時～16時
	8日(月)	相談	22日(月)	休業
	11日(木)	相談	23日(火)	イベント14時～16時
	15日(月)	祝日休業	25日(木)	相談